みずほマーケット･トピック (2019 年 3 月 29 日)

週末版

内容	1. 為替相場の動向	2. 来週の注目材料
	※誠に恐れ入りますが「3. 本日のトピック」はお休みさせて頂きます。	

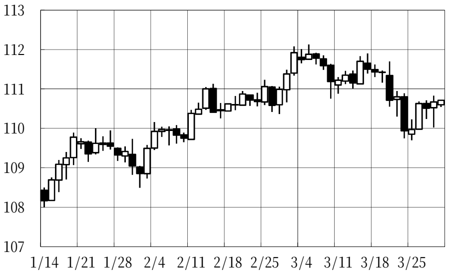
1. 為替相場の動向 (関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- 今週のドル/円相場は上昇した。週初 25 日に 109 円台後半でオープンしたドル/円は一時週安値となる 109.70 円をつけたが、米長期金利の上昇を手がかりに 110 円台前半まで値を上げた。しかし、イスラエルとシリアが領土問題で対立するゴラン高原についてトランプ米大統領がイスラエル主権を認めると宣言し、中東情勢悪化懸念からドルが売られると 109 円台後半まで値を戻した。26 日は株式相場が堅調に推移したことから円が売られ 110 円台半ばまで上昇、その後は米 2 月住宅着工件数が予想を下回り前回分も下方修正されたことから下押しする場面も見られたが、ユーロ/ドルが下落する動きに 110 円台後半まで上伸した。27 日は本邦企業の年度末のレパトリの動きと見られる円買いが優勢となり 110 円台前半まで反落したが、米金利が下げ渋る展開に 110 円台半ばまで回復した。28 日は前日のブレグジットに関する 8 つの「示唆的投票」で、すべて否決されたことからポンド/円が下落する動きも手伝いドル/円は 110 円近くまで値を下げたが、米中通商協議を巡る楽観的な見方が拡がり一時週高値となる 110.83 円をつけた。その後は、米 2 月中古住宅販売仮契約が予想を下回り堅調に推移していた株式市場が上げ幅を縮小する動きに 110 円台半ばまで下落し、本日のドル/円は同水準で推移している。
- 今週のユーロ/ドル相場は軟調基調で推移した。週初 25 日に 1.12 台後半でオープンしたユーロ/ドルは、独 3 月 Ifo 企業景況感指数が予想を上回り景気後退懸念が緩和したことから一時週高値となる 1.1331 をつけたが、トランプ大統領のゴラン高原についての宣言を受けユーロ/円が売られ、ユーロ/ドルは連れ安となった。26 日は翌日の英国の「示唆的投票」を控え 1.13 台前半の狭いレンジで推移したが、ユーロ売りポンド買いが強まったことから 1.13 を下抜け、その後も株価が上げ幅を縮小する展開に 1.12 台後半まで下落した。27 日は独金利低下などを受け 1.12 台半ばまで続落したが、ドラギ ECB 総裁が「マイナス金利の影響を和らげる措置が必要かもしれない」との見解を示したことから 1.12 台後半まで上昇。しかしながら、独金利がさらに低下する動きを背景に 1.12 台前半まで反落した。28 日は独 3 月消費者物価指数が弱めであったことから一時週安値となる 1.1214 をつけた。本日のユーロ/ドルは 1.12 台前半で推移している。

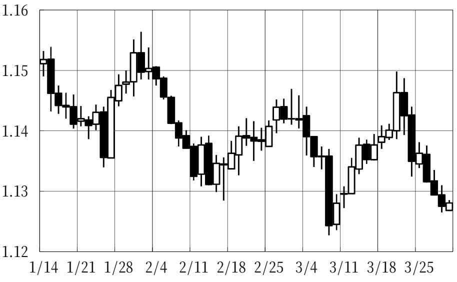
今週のおもな金融市場動向 (出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今　　週			
		3/22(Fri)	3/25(Mon)	3/26(Tue)	3/27(Wed)	3/28(Thu)
ドル/円	東京9:00	110.82	110.11	110.06	110.57	110.51
	High	110.89	110.24	110.69	110.71	110.83
	Low	109.75	109.70	109.95	110.24	110.02
	NY 17:00	109.94	109.97	110.63	110.51	110.67
ユーロ/ドル	東京9:00	1.1374	1.1296	1.1315	1.1275	1.1252
	High	1.1390	1.1331	1.1326	1.1285	1.1261
	Low	1.1274	1.1282	1.1263	1.1242	1.1214
	NY 17:00	1.1300	1.1313	1.1266	1.1244	1.1225
ユーロ/円	東京9:00	126.05	124.37	124.52	124.64	124.31
	High	126.18	124.81	125.00	124.73	124.42
	Low	123.83	123.88	124.44	124.05	123.65
	NY 17:00	124.24	124.44	124.63	124.29	124.25
日経平均株価		21,627.34	20,977.11	21,428.39	21,378.73	21,033.76
TOPIX		1,617.11	1,577.41	1,617.94	1,609.49	1,582.85
NYダウ工業株30種平均		25,502.32	25,516.83	25,657.73	25,625.59	25,717.46
NASDAQ		7,642.67	7,637.54	7,691.52	7,643.38	7,669.17
日本10年債		-0.07%	-0.08%	-0.07%	-0.07%	-0.09%
米国10年債		2.44%	2.40%	2.42%	2.37%	2.39%
原油価格(WTI)		59.04	58.82	59.94	59.41	59.30
金(NY)		1,313.70	1,321.81	1,315.69	1,309.58	1,290.42

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

・米国では、4 月 5 日（金）に 3 月雇用統計が発表される。非農業部門雇用者の増加数の市場予想は前月比+17.5 万人と、前月の同+2.5 万人からの反動がでる見通し。実際、一部政府部門の閉鎖の影響は一巡しつつあるとみられ、失業保険の新規申請件数は2月前半をピークに減少傾向にある。失業率については3.8%、平均時給は前年比+3.4%、週平均労働時間が 34.5 時間と、いずれも前月比でほぼ横ばいになると市場は予想している。FRB が年内の金融政策の正常化終了を示唆したところでもあり、市場の注目度は従来比やや低下しそうだ。ただし、平均時給の上振れには注意したい。過去の景気後退局面に先行して平均時給の上昇（企業コストの増加）がみられたためである。現状の労働生産性伸び率を考慮すると、いずれ平均時給が前年比+4%を越えてくるようであれば、市場で警戒感が高まろう。足許では長短金利逆転が景気後退期入りのシグナルとして注目されたばかりである。なお、金融政策関連では、今晩 29 日（金）にカプラン・ダラス連銀総裁やクォールズ FRB 理事の講演が予定されている。また、3 日（水）にボスティック・アトランタ連銀総裁やカシュカリ・ミネアポリス連銀総裁、4 日（木）はメスター・クリーブランド連銀総裁の講演も予定されている。

・本邦では、4 月 1 日（月）に日銀短観（3 月調査）が発表される。業況判断 DI については、企業規模を問わず、製造業および非製造業で前回 12 月調査時点から低下すると市場では予想されている。もっとも、企業マインドの鈍化が確認されるとはいえ、DI はプラス圏を維持するとみられる。2019 年度の大企業の設備投資については、前年比+0.9%の市場予想となっているが、例年、3 月調査では慎重な見通しが示される傾向がある点には留意。新たに掲載される、大企業・製造業の 2019 年度想定為替レートは、2019 年 1～3 月期実績を踏まえて 110 円前後になるとみられる。欧州では、英国の EU 離脱を巡る 3 回目の離脱案の採決が、今晩 29 日（金）にも実施される見通し。足許では 2 度目の国民投票を求める 100 万人規模のデモや離脱中止を求める嘆願書の署名が 500 万人超となったことで、離脱中止観測もにわかに高まっている。一方、メイ首相は辞任を交換条件に離脱派の支持固めを進めている。ただ、議会内でも離脱案を巡る落とし処は見出せていない。採決は離脱期限を 5 月 22 日まで延期するにすぎず、合意なき離脱の可能性は残ろう。

	本　　邦	海　　外
3 月 29 日（金）	――――――――――――――	・米 1 月個人消費支出　・米 3 月シカゴ購買部協会景気指数 ・米 2 月新築住宅販売件数
4 月 1 日（月）	・日銀短観 3 月調査 ・3 月製造業 PMI（確報） ・3 月自動車販売台数	・ユーロ圏 2 月失業率　・ユーロ圏 3 月消費者物価（速報） ・米 2 月小売売上高　・米 2 月 ISM 製造業景気指数 ・米 2 月建設支出
2 日（火）	・3 月マネタリーベース	・米 2 月耐久財受注（速報）　・米 3 月自動車販売
3 日（水）	・3 月サービス業 PMI	・ユーロ圏 3 月サービス業 PMI（確報） ・米 3 月 ADP 雇用統計　・米 3 月 ISM 非製造業景気指数
4 日（木）	――――――――――――――	・独 2 月製造業受注
5 日（金）	・2 月景気動向指数（確報）	・独 2 月鉱工業生産 ・米 3 月雇用統計

【当面の主要行事日程（2019 年 4 月～）】

ECB 政策理事会（4 月 10 日、6 月 6 日、7 月 25 日）
日銀金融政策決定会合（4 月 24～25 日、6 月 14～15 日、7 月 29～30 日）
米 FOMC(4 月 30 日～5 月 1 日、6 月 18～19 日、7 月 30～31 日)
スペイン総選挙（4 月 28 日）、欧州議会選挙（5 月 23～26 日）

国際為替部
チーフマーケット・エコノミスト
唐鎌　大輔（TEL：03-3242-7065）
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようにお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です
http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html （Archives） http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2019年3月26日	円安リスクの点検～敢えて考える円安リスク～
2019年3月25日	「自分の尾を追う犬」となったFRBと景気後退の考え方
2019年3月22日	週末版(コミュニケーションが荒れ始めたFRB～本末転倒感の拭えないドットチャート～)
2019年3月20日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年2月分)
2019年3月18日	「ユーロ圏の日本化」の正しい読み方
2019年3月15日	週末版(ブレグジット交渉、当面の読み方～人質戦略は奏功するのか？～)
2019年3月14日	「地方の南欧化」を想起させる業種別一律最低賃金
2019年3月13日	ブレグジット、「2度目の否決」と「新たな期限」
2019年3月12日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年1月分)
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2018年12月分)
2019年3月8日	週末版(ECB政策理事会を終えて～ドラギ総裁は1度も利上げできずに退任へ～)
2019年3月5日	米金利上昇＆ドル高を阻む「ドル化した世界」
2019年3月4日	大統領のドル高けん制～不安な「相手国が悪い」という理屈～
2019年3月1日	週末版(金融政策格差に落ち着いた年初の2か月間～互いに「住む世界が違う」様相～)
2019年2月27日	米中貿易協議再延期を受けて～現状と展望の整理～
2019年2月25日	円安リスクの点検～想定外の米経済堅調が招く円安～
2019年2月22日	週末版
2019年2月21日	FOMC議事要旨～「patient」の舞台裏～
2019年2月20日	自動車関税を前に考える日欧の立ち位置
2019年2月18日	停滞する日米欧中銀への期待と為替相場
2019年2月15日	週末版(米小売売上高ショックをどう読むか？～懸念される逆資産効果～)
2019年2月14日	看過できない仏伊関係の悪化～大戦以来の大使召還～
2019年2月13日	ドル/円相場は新常態にあるのか？
2019年2月12日	変わりそうにない対外直接投資の潮流
2019年2月8日	週末版(2018年の円相場の基礎的需給環境～対外証券投資への期待は難しそうな2019年～)
2019年2月7日	次期ECB総裁レースの現状整理
2019年2月6日	バイトマン独連銀総裁も認める景気減速の現状
2019年2月5日	ブレグジット交渉を巡るQ&A～今一度行う現状整理～
2019年2月1日	週末版
2019年1月31日	FOMCを受けて～正常化プロセスの終了～
2019年1月29日	「株価ファースト」という誤解を招きかねないB/S縮小戦略
2019年1月28日	円安リスクの点検～円高のメインシナリオを揺るがすもの～
2019年1月25日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「年内利上げ無し」を暗に認めたドラギ総裁～)
2019年1月24日	日銀金融政策決定会合を受けて～「願望」すら難しい状況に～
2019年1月22日	堅調なユーロ相場の背景にある欧州の滅速
2019年1月21日	対米貿易黒字ゼロ計画について～マッチポンプは終わらず～
2019年1月18日	週末版(正常化どころではないECBを取り巻く近況～市場のメインシナリオは転換済み～)
2019年1月17日	英国情勢の論点整理～「壮大な茶番劇」に終わるか～
2019年1月11日	週末版
2019年1月8日	財界トップの相場観と静か過ぎる「波」
2019年1月7日	「バブルは崩れてからがバブル」という考え方について
2019年1月4日	波乱の幕開けの読み方～猪突猛進の円高スタート～
2018年12月27日	3つの論点で要約する19年見通し
2018年12月25日	FRB議長解任騒動について～正真正銘のリスクオフを前に～
2018年12月21日	週末版(FOMCを終えて～新局面への第一歩、為替への影響は～)
2018年12月19日	FOMCを前に読みたい白川元日銀総裁インタビュー
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2018年11月分)
2018年12月17日	2019年、日米欧のテールリスクはどこにあるのか？
2018年12月14日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「高まる警戒」と「続く自信」～)
2018年12月12日	2019年、世界経済の勘所～利上げの真価が現れる年～
2018年12月11日	ECB政策理事会プレビュー～再投資方針の行方～
2018年12月10日	動き出した「メルケル後」のドイツそしてEU
2018年12月7日	週末版
2018年12月5日	遂に発生した逆イールド～金利に追随する株価～
2018年12月4日	パリ暴動の読み方～2つの懸念～
2018年12月3日	米中首脳会談～2020年まで続きそうな「壮大なマッチポンプ」～
2018年11月30日	週末版
2018年11月28日	メインシナリオへのリスク点検～FRBは来年こそ変わる～
2018年11月27日	続・「安全資産としての円買い」が勢いづかない理由
2018年11月26日	ECB政策理事会議事要旨～TLTRO3の行方～
2018年11月22日	週末版(制裁手続き着手を表明した欧州委員会～イタリアにとっては辛いポリシーミックス～)
2018年11月21日	ノーディールを視野に入れ始めたポンド相場
2018年11月20日	ユーロ圏を巡る資本フローとユーロ相場について
2018年11月19日	イタリア政局を巡る現状と展望～制裁が視野に～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2018年10月分)
2018年11月16日	週末版
2018年11月15日	メイ首相、最後の戦いへ～「外」から「内」へ～
2018年11月14日	ドル/円相場、現水準をどう理解すべきか
2018年11月13日	四面楚歌のユーロ相場～「5つの不安」～
2018年11月12日	円相場の基礎的需給環境の現状と展望
2018年11月9日	週末版(米中間選挙の見通しへの影響～不透明感後退も見通し大勢に影響なし～)
2018年11月8日	メンツを賭けた「7.0防衛」の危うさ～外準減少を受けて～
2018年11月7日	示唆される世界経済の先行き減速懸念～PMIとCLI～
2018年11月6日	露わになるユーロ圏の経済減速～注目されるECBの挙動～
2018年11月5日	米景気改善の「きわみ」～悩ましい貯蓄率の読み方～
2018年11月2日	週末版(ドル相場の近況に思うこと～ドル高の背景と今後の勘所～)
2018年10月30日	「メルケルなきEU」の幕開け～理想主義の後始末へ～
2018年10月29日	メインシナリオへのリスク点検～「高値波乱含み」という警告～
2018年10月26日	週末版(ECB政策理事会を終えて～不安を煽るECBの強気～)
2018年10月25日	ECB政策理事会プレビュー～再投資方針の行方～
2018年10月24日	「安全資産としての円買い」が勢いづかない理由
2018年10月23日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2018年9月分)
2018年10月19日	週末版(FOMC議事要旨を受けて～「鏡に映った自分」に踊るFRBの危うさ～)
2018年10月18日	為替政策報告書を受けて～抜きん出た中国の取り扱い～
2018年10月17日	ブレグジットを巡る近況整理～曖昧な危機認識～
2018年10月16日	ユーロ相場と資本フローの近況
2018年10月15日	為替条項要求の冷静な読み方～庇うほど弱点として露呈～
2018年10月12日	週末版(国際与信統計が示唆するドル高リスク～ドル建て債務を如何に軟着陸させるべきか～)
2018年10月11日	NYダウ平均株価の大幅調整について～起こるべくして・・・～
2018年10月10日	ベーシス上昇と米金利上昇とドル/円上昇の関係
2018年10月9日	米9月雇用統計を受けて～「想定外の加速」は継続中～